

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp  
田無公民館 南町5-6-11 ☎042-461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp  
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

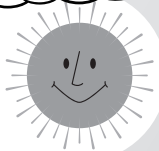
谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp  
ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp  
保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

# 身近な“自然”を 大人と一緒に！ 見てみよう！ for 夏休み 自由研究

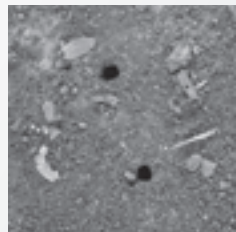
～知ってるようで、知らない近所～

早朝、昼間のうちに見つけておくもの

- ・カラスウリのつぼみ
  - ・メマツヨイグサのつぼみ
  - ・地面にあるセミの穴や木に付いているセミのぬけがら
  - ・落葉（秋に葉の落ちる）広葉樹がたくさんある所
- 明るい間にまちを歩いて、観察する所を探しておきましょう。



小学生のみなさん、長そで・長ズボンを着て、大人と一緒に知らないせかいを見つけに行こう！



セミの穴



セミのぬけがら

地面にセミの幼虫がはい出した穴があったり、草や木の枝葉などにセミのぬけがらが付いていたりすると、そこで夜間に羽化を観察できる可能性があります。

★昆虫を観察するために、コナラやクヌギ・サクラなどの落葉広葉樹がたくさんある所、雑木林や公園などを探しておきましょう。



★カラスウリはつる性植物。つぼみを探す時は、この葉が目印です。



カラスウリの葉



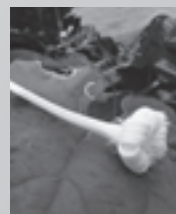
カラスウリの花（見頃）18:30～

★日中、メマツヨイグサの黄色のつぼみを探しておきましょう。



メマツヨイグサ（見頃）19:30～

宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』にも出てくるカラスウリの花が咲くのは、一夜かぎり。日の出とともにしぼんでしまい、同じ花が再び咲くことはありません。



しぼんだカラスウリの花

樹液に集まる昆虫（暗くなってから）



セミの羽化（見頃）20:00～21:00

## 早朝の散歩では

夜が明けだすころ、カラスウリの花はしぼみはじめ、5時ころにはレース状の花弁は姿を消します。ヒグラシが「カナカナカナ」と鳴き、6時ころにはアブラゼミやミンミンゼミが一斉に鳴きはじめます。7時ころになると、一晩咲いたメマツヨイグサは花を閉じはじめます。草の葉先の朝露が太陽の光に照らされて輝く様子や木の小枝にびっしりと縦一列に並んだアオバハゴロモの成虫を見ることもできます。



アオバハゴロモ

協力・写真提供：大森拓郎



青梅街道と所沢街道の分岐点の標識  
昭和29（1954）年撮影  
原田弘氏所蔵



現在の田無町一丁目交差点  
撮影：松嶋 真（田無町在住）

旧田無市域で青梅街道から分岐する所沢街道（秩父往還）は、所沢・飯能を経て秩父に至る道で、江戸時代には、秩父の観音霊場を巡る人々にぎわったといわれています。

## 写真で見る いまむかし 青梅街道と所沢街道の分岐点

街を見渡すと、公園や街路、住宅の庭には木々が植えられ、都心に近い西東京市にはかなりの「緑」が目につき、自然が残されているように感じられます。しかし最近、きれいに整備された街の中で徐々に「緑」の質が変化していると、私は感じています。畑や草原、雑木林などが消えて住宅地や広い道路に変わると、そこにはこの土地にあわな

日頃の活動や著書には、自然との共存を願う大森さんの「未来を生きる子どもたちへのメッセージ」が込められています。

多くの公園の一角に市民の合意で人の手を加えない草地を残したり、チョウの食草を植えたり、自宅のブロック塀を多く、一人ひとりが意識を変え、少しでも本来の自然に近づける努力をし、次世代につなげるべきです。その近道はまず自然を好きになることです。

このような活動を支える思いや考えをお聞きしました。

今月の一面特集では、観察ポイントの紹介や写真の提供などで、新町在住の大森拓郎さんにご協力いただきました。日本自然保護協会自然観察指導員でもある大森さんは、15年余にわたり新町を中心に自然の定点観察を行い、地域の児童館や保育園などで子どもたちに自然観察の指導をしてきました。今年4月には、この間の記録をまとめた著書『季節の移ろいと気づき』子どもたちに身近な自然をどう伝えるか』を発行しています。

いめずらしい樹木が植えられ、花壇などが作られます。そこに単一の植物だけを植えたり、四季折々園芸植物を植え替えたりの環境は、多くは「見せかけの自然」で、これでは多種多様な生きものは育ちません。その昆虫を小鳥が食べるといった、いわば生態系の循環がある環境こそが本来の自然（二次的自然）です。

「自然を守る」は、「子どもを守る」次世代を想って

